

学校法人城西大学理事長 水田宗子の人生ノート

第3章 城西大学が目指す人間教育

水田の学校法人城西大学に
おける原点は、1972(昭
和47)年にある。アジア経済
学者の夫がフルブライト研究
奨学金を得たことで、日本に
一時帰国して城西大学の教壇
に立ったのだ。

「ちょうどカリフォルニア
のスクリップス大学に移って
1年、学生とのつながりもで
きて、大学を去るのは残念で
した。でも、日本滞在といっ
せつかくのチャンスですし、

54

語教員も必要だから教えてみ
てはどうか」と言われた。

「以前教えた獨協大学も、
城西と同じ年の創立でした
し、また、城西大学はどんな
ところだろうかと思ひ、教え
る意欲が沸きました」

水田は、当時の武市春男経
済学部長に会った。そして、
その人柄と、できて間もない
学部のかじ取りをするリダー

一時帰国して城西に

シップに感服した。

「武市先生は、建物がいく
つか建っているだけで、きち
んと整備されているわけでは
ない創立期のキャンパスを、

設された獨協に比べ、建物も
植えた木々も小さく、キャン
パスは明らかに見劣りするも
のだった。当時は、同じ敷地
内に三喜男が創設し理事長を

務める城西歯科大学が存在感
を示し、城西大学も薬学部棟
が出来上がり、徐々に整いつ
つはあったものの、施設に
関してはまた立派なキャン

は山形から赴任してきた金融
論担当の中西充子助教授と研
究室を共有することになっ
た。

水田は父に、「図書館がま
だなかったことに失望した」
と言ったところ、「昔は勉強
部屋がなくても勉強した」と



卒業証書を手渡す水田三喜男学長

れでろうその明かりを頼り
に勉強していたという話をふ
と思い出しました。自分たち
の将来の夢を城西に託して学
ぶ学生たち、そして施設は整
わなくとも教えている教員や

水田は、経済学部助教授と
してプロゼミも持った。最近
新聞社に勤めている教え子の

一人に会ったという。
「ゼミでカフカの『変身』
を読んだのですが、『主人公
が変身したゴキブリの大きさ
は』と私が聞いたそつです。
彼は、これに『ドアの2分の
1くらい』と答えて私を感心
させた、と得意そうに話して
いました。文学部のない城西
大学でしたが、経済学部にも
文学的想像力の豊かな若者た
ちがいたのです」

水田は2年余で再びアメリ
カに戻った。父が志を抱いて
創設し、心血を注いで乗り切
った創立期の城西の一員とな
って教えた経験は、大学人と
して成長するためにかけがえ
のないものとなった。
(特別編集委員・斎藤柳光)